

# Phoenix 'E.M

vol.2

Rim of Fire

1, ©, Ifgf f "

• Ä" Å © Classic Traveller

GMs Screen

fg%fx% [f jf... [fXfT• [f rfx

# 目次

"Rim of Fire -The Solomani Rim Sourcebook" .....	3
概要 .....	3
企業 .....	4
政治 .....	6
種族 .....	8
歴史 .....	9
リムとエイリアン .....	16
何人かのパトロン .....	18
Classic Traveller Reprint .....	22
GURPS Traveller GM's Screen .....	24
トラベラーニュースサービス .....	25

GURPS is a registered trademark of Steve Jackson Games Incorporated.

GURPS Traveller, GURPS Traveller News Service, Pyramid, Illuminati Online, and the names of all products published by Steve Jackson Games Incorporated are registered trademarks or trademarks of Steve Jackson Games Incorporated, or used under license.

Traveller is a registered trademark of Far Future Enterprises, and is used under license.

ガープスはスティーブジャクソンゲームズ社の登録商標です。

ガープストラベラー、ガープストラベラーニュースサービス、ピラミッド、イルミナティオンライン、及びスティーブジャクソンゲームズ社が発売している製品の名称は、スティーブジャクソンゲームズ社の登録商標又は商標であり、許諾のもとで使用されています。

トラベラーはファーフューチャーエンタープライズ社の登録商標であり、許諾のもとで使用されています。

# "Rim of Fire -The Solomani Rim Sourcebook"

色々な意味で、スピンワードとは対局にあるソロマニリム宙域。歴史深く、人類発祥の地を含み、人口も多い。本書はそのソロマニリム宙域を扱っています。

著者のZeigler氏は、長年のトラベラーファンにしてSFファンです。GURPS:Greece、GURPS:Traveller First Inなどの作者であり、ShadowrunやEarthdownなどについての仕事もしています。

## 概要

ソロマニリム地域は帝国全土の3%ほどの星系を含むだけですが、人口の10%、宇宙貿易の40%を占めています。6000年に渡り宇宙における闘争の舞台ともなってきました。

現在の大公はKieran Langos Adairです。彼の祖母はソロマニリム戦争(Solomani Rim War)時に帝国軍の総司令官となり、終戦後に時のGavin皇帝によって大公に任命されました。以来、その一族が大公位を継いでいます。Kieranは1064年生まれ。外交部門に進み、Reaver's Deep、Dark Nebula宙域で任務に就いていました。その後、駐アスラン大使となり、1102年に父が病気になるのを機にダイアスポラに戻り大公になりました。

ストレフォン皇帝との個人的な親交が深いものの、Moot(皇室会議)はあまり彼のことを良く思っていないようです。彼はデネブのノリス大公と同様、独身です。

リムの貴族には大きく3つの派閥があります。いずれもソロマニ自治区時代に源を発しています。

「抵抗閥(Resistance Houses)」は星系に留まってソロマニ自治区時代を生き延びた少数の帝国系貴族です。彼等はタフで現実主義的です。穏健な手法を好み、帝国による支配を良きものと捉え、静かにしかし深く帝国を支持しています。Suleiman公爵が代表的な人物です。

「亡命閥(Exile Houses)」はソロマニ自治区時代に一度脱出した多くの貴族です。彼等は、より過激で攻撃的です。ソロマニに対して非常に敵対的で、彼等に対する懲罰を望んでいます。Arcturus公爵やAscalon侯爵が代表的な人物です。

「新閥(New Houses)」は帝国による再占領の後で任命された貴族です。政治的方向性

についてはバラバラで、平和的な貴族も攻撃的な貴族もいますし、ソロマニに対する態度も様々です。強いて彼等の共通性をあげるとすれば、その「上昇志向」でしょう。

帝国の基本ポリシーとして現地政府への介入は最低限度にするというのがありますが、リムでは例外が多く発生しています。というのも、ごく最近占領された地域が多いからです。実際、ソロマニリム戦争によって新たに占領された subsectos (星域) は12にのぼり、29の星系はいまだに軍政下にあります。

軍政下では、通常の帝国法よりも強い警察力が認められています。従って、通常よりも弱い容疑でも逮捕されることがありますし、軍事裁判にかけられることも珍しくありません。一般に治安レベルは厳しくその運用も厳格です。旅行者でも武器の携帯は禁じられているのが普通ですし、住民の場合は武器の所持自体が禁止されている場合がほとんどです。

しかし、軍政の目的は帝国の一員としての自治政府の確立です。この点が独裁や専制とは異なり、従って軍政の責任者も必要以上に権勢を振り回したりはしないものです。例えばテラ星系は1110年に自治を回復しています。

## 企業

### メガコーポレーション

リムは古くから開発されていた地域であるにも関わらず、ソロマニ関係の各種事件の影響もあって、今でもメガコーポレーション間の激烈な競争が行われている地域です。一方で、ソロマニの反帝国的傾向が強まるに連れて帝国に本拠を置くメガコーポは活動しずらくなっています。特にヴィラニ系の4つのメガコーポ(Makhdidkarun, Naasirka, Sharushid, Zirunkariish)は、ビジネス習慣の違いやソロマニ主義への反抗的態度などの理由でソロマニ系からは嫌われています。

Delgado: ソロマニリム戦争時に帝国側の領土拡張に合わせてリム地域に活動の場を広げてきました。又、この会社は労働者への扱いがきついことでも知られています(一方で、コストダウンに長けていることも事実です)。

General Products: 他地域では苦境にある同社ですが、リム地域では順調な利益と遵法主義とにより高く評価されています。

GSbAG: 事実とは認められていませんが、最初の商用ジャンプ宇宙船を開発したのは同社であるとの主張があります。それはともかく、同社は高品質の宇宙船で知られており、リムには多数の造船所を有しています。

Hortelez et Cie: リム地域の高人口世界にはたいてい同社の支社があり、事務局となるとほぼ全ての星系にあります。Ichiban Intersteller との競合を避けるため、リム地域では傭兵斡旋の業務を行っていません。

Instellarms : 同社もリム地域の主要星系に代理店を持ち、多くの星系に小売店を維持しています。武器商人の常として非常に誠実であることでも知られています。

Ling Standard Products : 様々な商品を扱っています。但し、必ずしも遵法精神に富んでいるとは言えないようです。

Makhidkarun : 上述のように、ヴィラニ系の会社はソロマニではあまりウケが良くありません。同社もリム地域ではあまり成功していません。

Naasirka : 同社もヴィラニ系ですが、General Products 社と密接に協力することである程度市場に食い込むことに成功しています。

SuSAG : 同社の活動の場は帝国外にも広がっています。実際、幾つかの子会社をソロマニ連合内にも保持していますが、政治的理由から出来るだけこの事実を伏せておこうとしています。

Sharushid : 同社もしばしばソロマニ派から標的にされますが、現実には確固たる足場を築いています。テラ産の酒類のほとんどは同社が扱っているのです。

Sternmetal Horizons : 同社はリムの高人口世界のほとんどで食糧供給システムの重要な担い手となっています。評判も良く、各星系政府や貴族との関係も良好です。

Tukera Lines : 例によって主要交易路の独占的地位を目指して活動しています。Adair 大公と対立関係にありますが、皇室へのコネを活用して大公の干渉を抑えています。

Zirunkariish : 同社はリム地域で活発に活動しています。特にUltima 星域やAlbadawi 星域では幾つかの星系開発に深く関わっています。同社もヴィラニ系のためソロマニ派から標的にされることが多く、常にボディガードを連れています。

## 大企業

幾つかの大企業を挙げておきます。

Galactic Arbitrations : Sharushid の子会社です。

Ichiban Interstellar : ソロマニリム最古の傭兵斡旋会社です。「サイバーニンジャ部隊(cyberninjas)」と呼ばれる特殊部隊を持っているという噂もあります。

Saxe Transport : 主にソロマニ領内で活動する運輸会社です。高級路線がウリです。

Solar Shipping : 主に帝国領内で活動する運輸会社です。Tukera と競争を繰り広げています。

Solomani Shipping : 同社も運輸会社で、Tukera と競争の真っ最中です。

Thinking Machines : 情報機器とロボットの会社です。Naasirka の子会社であるため苦勞が絶えません。品質によって何とか耐えています。同社が情報部門リーディングカンパニーであることが、リム地域の情報化の遅れに繋がっているとの指摘もあります。

Transstar : ソロマニ連合最大の運輸会社です。ソロマニ党の所有下にあり、党御用達です。

# 政治

## ソロマニ連合

ある意味でリム地域は単純です。帝国の他の国境地域では色々な勢力が絡み合っているのに対し、リムでは相手はソロマニ連合だけで、他の種族は勢力として非常に小さいものだからです。

とは言え、帝国にとってソロマニはそれだけで十分にやっかいな存在なのです。

ソロマニ連合はソロマニ主義(Solomani Cause)というイデオロギーで固まった国家で、ソロマニ党(the Solomani Party)、連合軍(the Confederation Military)、ソルセック(the Solomani Security:SolSec ソロマニ警察)という3者による連合政治形態をとっています。連合と各星系との関係は、原則としては帝国同様に自治主義ですが、実際には帝国よりも深く関わり合っています。例えば星系間を移動する場合はソルセック発行のパスポートが必要になります。

## 中央政府(Central Government)

連合内の各政府は経済力に応じた数の書記官(Srcretary)を書記局(Secretariant)に送り込みます。これが連合の中央政府を構成しており、予算配分と立法の権限を持っています。書記局は4年に1度、あるいは必要に応じて書記長(Secretary-General)を選出します。書記長は行政の長であり、上級審議会(High Council)のメンバーと同等の権力を持ちます。審議会はソロマニ連合艦隊と陸軍の最高司令官であり、書記長は名目上は審議会のトップにあります。しかし、実際には書記局や書記長の権限は限られたものに留まっています。

## ソロマニ党(the Solomani Party)

ソロマニ連合内唯一の合法政党です。理論的にはソロマニ起源の全人類は自動的にソロマニ党に属するという事になっていますが、実際には党に入らない人もたくさんいます。ソロマニ党で出世するには、純血ソロマニであることを証明する必要があります。

書記官や書記長の選出は、形式的には各政府が決める事になっていますが、実際にはソロマニ党が決めています。

党組織は厳格な階級制です。10人程のメンバーからなる細胞組織(cell)に始まり、トップは上級審議会(High Council)です。上級審議会には書記長とソルセックの調整官(Coordinator)が加わります。書記長が選んだメンバーは、書記官が失職してもメンバーに残るといった特徴があります。

ソロマニ党は決して一枚岩の組織ではありません。ソロマニ主義を掲げるという一点を除けば、党内には様々な考えがあり、多くの派閥(Factions)があります。比較的自由な世界においては、各派閥が政党のように振る舞っていることもあるのです。

## ソロマニ軍(the Solomani Miliraty)

ソロマニ軍は現地の事柄に積極的に介入するという点で帝国軍と大きく異なっています。その組織は大きく海軍と陸軍に分かれています。海軍大提督(Grand Admiral)と陸軍大將軍(General)はどちらも上級審議会のメンバーです。

ソロマニ海軍は普段は星域艦隊として活動しており、戦時にのみ連合艦隊を結成します。帝国では偵察局や海兵隊などが担っている役割も、ソロマニでは海軍が担います。

一方ソロマニ陸軍は海軍よりも非集権的であるという特徴があります。平時においては、ほとんどの部隊は各星系に駐屯したままです。

更に各星系には祖国防衛軍(Home Guard)があり、大きな宇宙港がある星系には祖国防衛艦隊もあります。彼等は連合よりも星系に対する忠誠が強い場合が多く、反乱が起きたときにはその中核を担っていることが珍しくありません。このことは、ソロマニ連合の対外侵攻能力が低いことの原因でもありますが、周辺諸国にとっては必ずしも悪いことではないという見方もできます。

## ソルセック(Solomani Security)

ソルセックは連合をまとめるための糊の役割を果たしている組織と言えます。その任務は「外敵からソロマニ主義を守り維持すること」です。

ソルセックは監視者(Monitor)を使います。監視者は普通の市民の中から選ばれ、周囲の状況を監視しソルセックに報告する役目を持っています。特に軍関係者、活動家、宇宙商人、政治家などは監視の対象となります。つまりPC達が交渉する相手は監視者であるかもしれないし、それどころかPC自身が監視者になるのかもしれないのです。

特に軍に対する監視は厳重です。軍には政治局員(political officers)がいますし、上級軍人も監視者の役割を果たすことが期待されています。そして、当然、非公然の監視者もいるのです。

しかし、監視者の役割は監視であり行動ではありません。行動するのはエージェント(Agents)です。エージェントも市民に紛れ込んでいてその正体は明らかにされません。監視者が不穏分子を発見した場合、次にソルセックはその危険度を評価します。危険と判断した場合はその人物を排除することになります。単純に拉致することもありますし、じわじわと社会的地位を破壊しようとしたり、別件逮捕を試みることもあります。あるいは、暗殺の場合もあります。こう言った理由により、ソロマニ市民は少なくとも外見上は常に党への忠誠を誓うのです。

しかし、ソルセックは単なる弾圧組織ではありません。その目的はあくまでもソロマニ主義を守ることであり、政敵やライバルを追い落とすことではないのです。とは言え、ソルセックがしばしば弾圧組織的に動いているということもまた事実です。一方、党や軍も情報組織を持っており、この種の組織の重要な任務にはソルセックに対抗するという事も含まれています。ソロマニ優越主義の誇りを保つためとは言え、この「見えにくい闘い」はソロマニ市民に少なからぬ犠牲を強いています。

# 種族

## ヴェガ人(Vegans)

ヴェガ人はリム地域に住む群小種族の一つです。強大な国家を作るメンタリティーには欠けていますが、平和で効率的な社会と技術的能力の高さ故に、無視できない存在になっています。

ヴェガ人は人間型、二性、温血、左右対称の生物で、平均身長は7フィートですが、低重力世界出身のため人間よりもやわです。腕は二本ですが、指ではなく触手を持っています。

ヴェガ人の人生観は「人生とは生存競争ではなく芸術である」というもので、静かに生きることを望んでいます。ヴェガ人の社会はtuhuirという組織の集合体です。適当な訳語がありませんが、文化／哲学／道、などの意味に近い単語です。成熟したヴェガ人は生まれのtuhuirを離れ、自分にふさわしい場所を探します。そして己にふさわしいtuhuirを見いだして加わったヴェガ人が成人として認められるのです。稀にどこのtuhuirにも属さない放浪者(Pilgrim)を選ぶヴェガ人もいます。彼等は変わり者ではありませんが、しばしば偉大な天才であることもあります。

tuhuir 間に争いがあったという記録はありませんが、「ヴェガ人の誓約」(Vegan Covenant)という制約があります。一種の成文憲法である「誓約」は10000年以上前から伝わるもので、何度も改訂を繰り返してきています。ヴェガ人に人間で言うところの宗教はありませんが、この「誓約」を聖典とした宗教が存在しているという見方もできます。

ヴェガ自治区を統治しているのもtuhuirの一つで「神聖なる誓約の守護者(Guardinas of the Inviolable Covenant)」という意味の名前を持っています。数千年の歴史を持つこのtuhuirは今では効率的な公的機関として機能しています。

## 群小種族

ヴェガ人を除くとリム地域にはあまり群小種族はいません。一方でテラ人が知性化した生物が何種類もいます。

星間戦争(Interstellar Wars)時代に、テラ人は自らの補助としてイルカを知性化しました。Tursiops galactisがその名称です。ヒレの先に短い指状の器官を持っており、これで機器類の操作をすることができます。人類社会で活動する場合には、反重力移動機能と操作腕(waldos)を持った移動スーツを着用します。しかし人間とのコミュニケーションには問題が残っており、最近ではDelphineseという人工言語を使う試みがなされています。後述するGurunganとは犬猿の仲です。

他にも、チンパンジー、ギボン、ゴリラ、オランウータン、象、狼などが知性化されていますが、広く分布しているわけではありません。

GurunganはUgarupの原住生物ですが、あまり知られていない存在です。

外見は蛸ににており、6本の触手を持っています。視覚はなくソナーで周囲の環境を察知し、水中の化学物質にも敏感です。基本的に水棲なので、空気中に出されると1時間ほどで死亡してしまいます。

Gurunganは、世界の全ての出来事はGurunganの意志が原因であるという思想を持っています。又、個の概念に乏しい一方で、強い種族意識を持っています。そのため、種族のためと思えば個人の苦難や危険は厭いません。が、他の知的生物が自分達と違うのだということをうまく理解出来ないため、Gurunganと交流するのはしばしば難事業になります。

知的なGurunganは女性だけです。男性は女性に寄生して生きる小型の生物に過ぎません。そのためGurunganには事実上、性についての概念がありません。彼等の認識では、ある生物に二性があるということはなく、それは二つの異なった生物が共存しているのだということになるのです。

## 歴史

### 前史

人類種族はテラを起源にしていますが、人類種族で最初の星間文明はヴランドで起こりました。この文明はゆっくりと拡大を続け、帝国歴-6000年頃にはテラから60パーセクの所まで迫っていました。最初にヴィラニに接触したのはヴェガ人でしたが、彼等は拡張欲に乏しく、母星のMuan Gwiから5パーセクほど広がったところで停止しました。その後ヴィラニはヴェガ人の征服に着手しました。ヴェガ人の善戦も空しく-4404年にヴェガは降伏し、ヴィラニの支配を受け入れました。その後、内政上の理由でヴィラニの拡大は停滞しました。その停止線は、当時前工業時代であったテラからわずか3パーセクのところでした。

テラの特徴は多様性でしたが、これは絶え間ない闘争ももたらしました。最初の有人宇宙飛行(-2560年)の前には、核兵器を使用した大規模な戦争すら起こっていたのです。その後星系環境の悪化を契機にニューヨーク条約(-2499年)が結ばれ、ようやく星系内に一定の安定が訪れました。

政治的安定を得た後、テラの宇宙開発はUNSCA(United Nations Space Coordination Agency)が中心となって推進され、世代間宇宙船を用いた恒星間飛行も行われるようになりました。そして、-2458年にはスラスター(反重力機器)、-2434年にはジャンプドライブが開発されました。そして、-2424年にはバーナード星系へのジャンプによる探検が成功しましたが、そこでテラ人はヴィラニ人と最初の接触を果たしたのです。

### 星間戦争(Interstellar Wars)

テラの幾つかの勢力が軍事拡張に乗り出しはしたものの、当初はヴィラニとソロマニ人(テラ人)の間では平和的な貿易も行われていました。そして、この時期にソロマニ

がヴィラニのジャンプドライブのリバースエンジニアリングに成功したことは、後に非常に大きな意味を持つこととなります。

その後緊張が高まり、-2408年には警告を無視してバーナード基地に接近したヴィラニの商船が撃墜されるという事件が発生しました。これを契機に、ついに星間戦争(the Interstellar Wars)が始まったのです。

第一次戦争はテラのバーナードにおける権利を認める代わりにヴィラニ国内には手を出さないという形で決着しました。戦後、テラは体制の改革を行い、-2398年にテラ連邦(Terran Confederation)を設立しました。そして、ジャンプ2ドライブの開発に成功しました。これにより、テラ側は移動技術の面でヴィラニに追いついたこととなります。

第二次戦争はテラの商船によるヴィラニ帝国領侵犯が看過できなくなったことが原因で生じました。ヴィラニ帝国に内戦が起こったこともあり、-2389年にヴィラニ帝国がテラ連邦を同盟を結ぶという形で決着しました。

第三次戦争はテラ連邦を叩く必要を感じた総督による奇襲(-2378年)によって始まりました。テラ連邦は本星であるテラにまで追いつめられましたが、必死の抵抗でヴィラニ帝国軍の撃退に成功、これにより総督が交代することになりました。総督交代の際に体制を立て直したテラ連邦は失地の回復に成功し、Nusku 占領を機に停戦にこぎ着けました。-2366年のことです。

第四次、第五時戦争は、テラ商人の貿易攻勢によってリム地域のヴィラニ経済が危機に陥れられたことに源を発しています。-2352年、ヴィラニ帝国は充分に準備された攻勢を開始します。ヴィラニ帝国の戦略に翻弄されたテラ連邦は-2346年にヴィラニの商慣行を尊重するという条件で講和しました。しかし、-2340年にはテラ連邦は奇襲攻撃を行います。ヴィラニ帝国側がダイベイでの内戦に対処するために艦隊を派遣していたこともありテラ連邦の攻撃は成功します。しかし、その後のヴィラニ帝国の反撃によりテラ連邦は再び窮地に追い込まれました。しかし、またしても幸いなことに総督が交代し、後継総督は自軍の損害を恐れて停戦に合意したのです。

第六次戦争は、-2327年にヴィラニの海賊船がMarkashiを略奪したことがきっかけで発生しました。これはヴィラニ帝国政府によるものではありませんでしたが、テラ連邦はこれを機会にヴィラニ帝国領への侵入を開始しました。ヴィラニ帝国のリム領の経済が疲弊していたこともあり、テラ連邦の侵攻に対抗することができず、ヴィラニ帝国は-2321年に停戦に同意しました。

第七次戦争はヴランドから派遣されてきた艦隊による-2317年の攻撃によって始まりました。しかし、初期の戦闘には勝ったもののリム領の経済はこの艦隊を支えることができず、やがて艦隊は引き返していきました。その後のテラ連邦の反撃によりヴィラニ帝国は大きく後退し、Dingir星域の半分をテラ連邦に渡すことで-2308年に停戦が成立しました。

第八次戦争はヴィラニのはぐれ者がKarkharでテラ連邦を攻撃したことで始まりました。この頃までには事実上ヴィラニ帝国はリム地域から撤退しており、テラ連邦の艦隊を押しとどめる力はありませんでした。-2348年にエンスラー条約(The Treaty of

Ensulur)によって戦争は終わりを告げました。ヴィラニ帝国は全地域をテラ連邦とヴェガに渡したのです。

この後、ヴィラニ皇帝はコア艦隊をリムに派遣しテラ連邦の撃滅を図りました。しかし、テラ連邦はジャンプ3ドライブと中間子兵器を実用化しており、コア艦隊は反撃を受け壊滅しました。歴史的には -2266年のArkiirkii 占領を以て、星間戦争は終わったとされています。

## 人類の支配(the Rule of Man)

ヴィラニ帝国がテラ連邦の支配を受け入れた頃、テラ連邦の市民の大半はヴィラニ世界で生まれ育った人々でした。彼等はテラへの忠誠心に乏しく、反ヴィラニ感情のようなものも残っていませんでした。一方、テラ連邦を支配していたのはテラであり、テラには強い反ヴィラニ感情が残っていました。

-2204年、テラ連邦は全ての支配星系をテラの直接管理下に置く方針を打ち出しました。しかし、これがヴィラニ市民の強い反発を受けるのは必至でした。事態を憂慮した連合艦隊司令官Hiroshi Estigarribiaはクーデターを決行、自らをヴィラニ帝国の摂政にしてテラの守護者(regent of the Vilani Imperium and protector of Terra)であると称しました。このクーデターは成功し、「人類の支配(the Rule of Man)」が始まりました。「人類の支配」を「第二帝国」と呼ぶこともあります。

彼自身は摂政の立場を維持しましたが、彼の死後を引き継いだ顧問団長は権力を掌握後に自らを「皇帝ヒロシ I I 世」と称し、その後の後継者も皇帝を称するようになったのです。

広大な地域を支配するのは困難な事業ですが、「人類の支配」は広範な自治権を認めることでこの問題を解決しました。

この時期、多くのテラ人が第二帝国中に広がり、彼等は各地で高い地位を獲得しました。しかし、新たな開拓の試みは停滞気味でした。新たに開拓するよりも開拓済みの地域で力を得ることが好まれたからです。そのため第二帝国の多くの地域ではテラ人が多数派を占める一方、テラの近くにも未開拓の星が残されることになりました。

## 暗黒期(the Long Night)

「人類の支配」は次第に衰えていき、-1900年にはそのことは誰の目にも明らかになっていました。各星系は自らの利益にのみ関心を持ち、冒険や開拓よりも略奪が横行し、遂に-1776年に中央政府の財政破綻が破綻、こうして「暗黒期」が始まりました。

ソロマ二人がハイブ人とアスラン人に初めて接触したのはこの頃です。アスラン人とは衝突することが多かったようですが、ハイブ人とは(仲良くとは行かないまでも)敵対することはありませんでした。

リム地域は比較的長期に渡って「暗黒期」の影響を押さえ込んでいましたが、-1690年にはやはり財政破綻を起こし、中央政府は崩壊してしまいました。中央政府崩壊後にテラの利益を代表することになったのがテラ商業共同体(TMC: Terran Mercantile Community)でした。しかし、その後も星間交流は縮退の一途を辿り、ついにはTMCも海賊対策費用に見合わないという理由で恒星間貿易から手を引いていくことになりました。そして、-1400年頃までには獲物の枯渇により、海賊の活動も下火になっていました。

一方でアスラン人のリムにおける活動は重要な意味を持つようになります。人類とアスラン人との協力も行われていました。しかし、-1120年のアスラン国境戦争(Aslan Border Wars)によりこの協力も途絶えてしまいました。

その後、リム地域では幾つかの小帝国(Pocket Empires)が生まれ、TMCもその一つとなりましたが、いずれも大きく育つことはありませんでした。

### 第三帝国(the Third Imperium)

この混沌の時代に終わりを告げたのは、シリア連合(Cylean Confederation)でした。その指導者の名前をクレオン = ズナスツ(Cleon Zhunastu)と言います。連合はヴランドとの歴史的友好関係もあって、まずその地域に向けて広がっていきました。リム地域にはソロマニに支配された強力な小帝国があるという噂もあり、クレオン1世はコア地域の周辺を先に固めることにしたのです。

100年頃に偵察局がソロマニリム地域に進入しました。この頃には、帝国の主な政策は征服ではなく、星間貿易の拡大を訴えるというものになっていました。この政策は時間がかかったものの上手く進み、200年頃にはリム諸国も貿易を拡大していっていました。しかし、この政策が完遂する前に、帝国はReaver's Deep、Dark Nebula、Magyarの星域に跨って広がっていたアスラン国境紛争への対処に巻き込まれていったのです。

その後もリム諸国は帝国への加盟に踏み切ることはありませんでした。ジャクリーン1世(Empress Jacqueline I)の時代にDinir League、the Vegan Polity、Old Earth Unionが帝国に加わりましたが、この流れも606年にジャクリーン1世が暗殺されたことで途切れてしまいます。

ジャクリーン1世暗殺後の内乱時代には、リム地域を基盤にした何人かの軍人皇帝も現れましたが長続きはしませんでした。しかし、軍人皇帝は全て純血の(あるいはほとんど純血の)ソロマニ人であり、軍隊や貴族にもヴィラニヤやソロマニの影響を色濃く受けた人物が多数いました。「ソロマニ主義」が生まれたのはこの時代です。

マーガレット1世(Margaret I)は、ソロマニの影響による政情不安を抑える目的で704年にソロマニ自治区(Solomani Autonomous Region)を設立しました。自治区はテラを中心とした50パーセクの範囲に及ぶものでした。当初、帝国とソロマニ自治区との関係は良好なものでした。しかし、時がたつにつれ、ソロマニ運動が自治区を支配するようになりました。自治区政府は各星系の政策に対して細かく介入(これは帝国の方針には沿わないものでした。)するようになりました。ソロマニ自治区内のソロマニ人にはこ

れといった不満はありましたが、非ソロマニ人に対する圧迫は酷いものでした。彼等は政治からは遠ざけられ、土地は取り上げられ、ほとんど二級市民扱いを受けたのです。

860年頃にはソロマニ運動が自治区全土で支配的となり同時に反帝国主義がピークに達しました。そして、遂に871年にソロマニ連合(Solomani Confederation)が誕生しました。

帝国は当初「ソロマニ自治区の内政に干渉しない」という形でソロマニ連合を黙殺しました。しかし、弾圧に耐えかねたソロマニ自治区内の幾つかの非ソロマニ星系から「自治区から脱退したい」という申し出を受けたマーガレット2世(Margaret II)は、この申し出を受理し、帝国海軍に執行を命じました。930年頃にはソロマニの私略船と帝国海軍との衝突は頻繁なものになりました。連合政府は帝国との正面衝突を避ける方針をとりましたが、これを見た他の被抑圧星系からの自治区離脱の動きが高まっていくのを見過ごすことができず、940年に704年条約の破棄を宣言しました。

マーガレット2世は和戦両面の戦略をとりました。これは皇帝が死ぬまでは上手く行っていました。しかし、後継者のスティリクス皇帝(Styryx)はソロマニに対して十分な注意を払わず、更には第3次辺境戦争(979～986)敗戦の責任をとって退位を余儀なくされてしまいます。

スティリクス皇帝退位のニュースをチャンスと見たソロマニ連合は989年に完全な独立を宣言しました。これに対し、新皇帝ガヴィン(Gavin)は990年に開戦を布告し、ソロマニリム戦争(the Solomani Rim War)が始まりました。

この戦争は当初ソロマニ優位で推移しましたが、帝国の反撃に対して過敏に反応しすぎるといふ戦略ミスのため徐々にソロマニは優位を失い、998年には完全に帝国優位の状況に変わっていました。この年帝国は二本立ての攻勢に踏み切ります。テラへの直接攻撃と周辺星系の解放作戦で、テラにソロマニ軍を引きつけその間に他の星系を攻めるといふ戦略です。この戦略は成功し、ソロマニは徐々に後退。1002年には遂にテラへの攻撃が開始されました。そして、ほぼ1年に渡る激戦の末、テラは陥落しました。

帝国はテラの陥落によりソロマニ側が降伏するのを期待していました。しかし、テラの先に広がる地域は完全にソロマニ主義の影響下にあり、彼等は降伏しませんでした。テラ攻略に資源を費やしたこともあり、帝国は休戦を打診、ソロマニ側もテラ奪還の目処がたたないことからこれに同意しました。平和条約こそ締結されていませんが、こうしてソロマニリム戦争は1002年に集結しました。

## 戦後

ソロマニは戦後に経済力と軍事力の強化を図って幾つかの改革を行いました。しかし、その改革は地方組織の発言力を強化し、中央政府の威光を減じるという副作用を起こしました。一方帝国側も1004年にヴェガ自治区(Vegan Autonomous)を設立するなど、再占領した星系の再建にとりかかっています。

現在に至っても両国の間には正式な国交は結ばれていません。しかし、経済交流や非

公式な折衝は行われています。

帝国の現在の政策は、帝国領を犯さない限りソロマニ連合の存在を認めるというものです。帝国領内におけるソロマニ党の存在も、暴力行為を伴わないという条件で許されています。もちろん、テロリスト対策には余念がなく、とくに1045年のフェニックス計画(Phoenix Project)の発覚(メガトラベラー「帝国百科」の「不死鳥計画」参照。)以降は非常にしっかりとしたものになっています。

連合側の態度は複雑です。連合の利益のためには反帝国テロを支援することは出来ず、一方でソロマニ主義を信奉する多くの市民はソロマニ運動が進まないことに不満を覚えています。中央政府はソロマニ運動を支援するが、被占領地域のソロマニ党に対しては経済的にも軍事的にも援助はしない、という政策をとっています。

## 現状

ソル大公は、帝国経済を発展させソロマニとの和解を進めるという政策をとっています。「抵抗閥」と「新閥」の穏健派貴族はこの政策を指示していますが、「亡命閥」の貴族はソロマニの脅威を排除することを最優先にするべきだと考えています。現状で高位の貴族には穏健派が多いためこの政策が進められていますが、「亡命閥」の貴族が納得している訳ではなく、大公への直接的攻撃こそ控えているものの様々な圧力を加え続けています。

リム地域は富裕な地域です。当然メガコーポレーションの関心も高いものになります。そして、新規に開拓される余地が少ないことから、既存の利益の争奪戦の生起は必至と言えます。軍事力の行使こそ稀ですが、商務省(Ministry of Commerce)、労働団体、環境保護団体、などの活動による影響は爆弾に劣らないもので、それらを自分に有利になるように利用しようとする情報戦は絶え間ないものとなっています。現在最も問題になっているのはテュケラ運輸によるものです。同社はソル周辺の貨客輸送市場を奪おうと活発な活動を続けています。今のところは、価格競争や独占契約などによるものに留まっていますが、貿易戦争の可能性も取りざたされています。現大公はテュケラの動きを歓迎していませんが、テュケラは政治面でも活発な働きかけを続けています。又、LSP社のカルテル連合に対するスターンメタル社の攻勢も最近の目立った動きと言えます。

ソロマニ連合側は、中央政府と現地政府との関係をどのようなものにするかという問題を抱えています。1117年に起きたKukulcan星系の連合離脱問題とこの問題への対処方針を巡っての論争がその最も顕著な現れです。中央政府の力不足が離脱を招いたという見方がある一方、中央政府の権限強化が人種差別主義の台頭と自由貿易の制限とに繋がると恐れる者も少なくありません。又、近隣星系と紛争を抱える政府は中央政府の介入を嫌う傾向にあります。しかし、ソロマニ主義の推進はどうなるのか？という問題は依然残ってしまうのです。

ソロマニ党がこの政治問題のため分裂してしまったことがソルセックの台頭を招きました。作戦上の失敗の責任追及ということもあり、Kukulcan問題でソルセックは海軍に

対する肅正に踏み切りました。肅正の成功により、ソルセックの権限は強化されました。党は分裂し、軍は地域の利益のみを優先し、いずれもソロマニ主義を推進することができなくなった、連合を守ることができるのは自分達だけだ、とソルセックは考えています。

実は、ソロマニ連合内には、ソロマニ主義推進に不熱心なグループが多くいます。ソロマニ人は優越しているという考え自体には疑義を挟まないものの、帝国からも連合からも独立したいという「国粹主義者」グループです。反帝国という視点では連合と国粹主義者は協力しますが、内政問題については対立関係にあります。国粹主義者は軍人に多く、これが軍とソルセックとの軋轢に繋がっています。

1120年に開催される予定のソロマニ党大会ではこれらの問題が噴出するでしょう。次期書記長はソルセックに頼らざるを得ない状況にあり、ソルセックを基盤にした書記長がどのような決断をするにせよ、それは連合の内外に大きな影響を与えることになるはずです。

## ソロマニ問題

ソロマニ問題の厄介なところは、それが「内在」していることです。

デネブではゾダーンが脅威になっていますが、ゾダーンは「外部者」です。ゾダーン人が帝国内に居住し、周囲にゾダーン文化を押しつけたりすることはありません。少なくとも帝国内は一つに団結していると言えるのです。

しかし、リムではソロマニは合法的な集団なのです。そして、この地域では「星間戦争」以来多くの戦火を体験しており、何らかの意味で「自分達こそ犠牲者である」という主張を出来ない集団はありません。そのため文化的な溝は容易には埋めることができなくなっています。

帝国の基本理念は、所属世界に対して貿易による発展と集団安全保障とを求めるだけで、それ以上の強制はしないというものです。ソロマニ主義は分裂と血統主義とをもたらすものであり、それは帝国の基本理念に反するものです。しかし帝国という象徴的存在を通じて繁栄を図るという方法で溝を埋めることができないとすると、帝国は手詰まりになってしまいます。反ソロマニ運動を推進するのでは、それはソロマニ主義同様の問題を含んでしまうからです。

それを解決できるかもしれないというのが、帝国がオーセンティック運動(Authentic Movement)を支援している理由です。オーセンティック運動は復古運動の一種ですが、自らの伝統文化が誇るべきものであると同時に、他者の文化も尊重するというものです。1000年頃にコアで起こった運動で、1010年頃にソロマニリムにも広がり始めました。オーセンティック運動に賛同したソロマニ人は、ソロマニ主義にも反ソロマニ主義にも陥らないような考えを持つようになるのです。

帝国によるオーセンティック運動支援は水面下ではかなりのものになっていると言われています。そのせいもあり、多くのソロマニ連合所属の政府は運動の拡大を無視する

か、反対するかしています。しかし、僅かずつとは言え、成果が上がっていないわけではありません。帝国の支援はともかくとして、オーセンティック運動がリムの現在の問題を解決する可能性を持っていることは事実なのです。

## リムとエイリアン

アスラン人：ヴェガ人を別にすれば、ソロマニリム宙域で最も多く見かけるエイリアンです。宙域のアスラン人口は全体の1%に満たませんが、それでも数十億人のアスラン人が住んでいることとなります。しかし、ソロマニ連合の支配地域ではアスラン人も二級市民扱いです。帝国領内のアスラン人は市民と平等に扱われており、軍籍を持つ者も少なくありません。又、アスラン伝統文化の復興を目指す動きもあります。

ソロマニ連合にはアスラン支配地域への進入を目指す動きもあり、戦争の可能性こそ低いものの、国境は常に緊張状態にあります。

ドロイン人：数が少なくほとんど影響はありません。

ハイヴ人：ソロマニ連合と国境を接していることもあり、ハイヴ人は時々みかけられます。海賊退治の手際の良さは連合も認めており、ハイヴ人の軍事力には一定の敬意が払われています。ハイヴ人は帝国も連合も含めて人類全体を指導すべき対象と捉えています。例によって「ハイヴの陰謀」説が存在し、連合を存続させているのはハイヴ人だという説もあります。更に、「オリオンの兄弟(Brotherofood of Orion)」というテログループがハイヴの影響下にある可能性はかねてから指摘されています。しかし、証拠はありません。何も無いからなのか、操作が上手くいっているからなのかも分かりませんが。

ククリー人：遠すぎてほとんど影響はありません。

ヴァルグル人：ヴァルグル人の遺伝的母星はテラですが、ほとんどのヴァルグル人はそのことに何も関心がありません。変わり者の一団がテラ付近に移住してきたことはありますが、それだけのことであり、ソロマニリム宙域で見かけるヴァルグル人のほとんどは帝国市民です。しかし、ソロマニ運動の一派にはソロマニ人の定義を拡大し、ヴァルグル人をソロマニ人として認める者もいます。連合の大半も、そしてヴァルグル人自身もほとんど認めたりはしません。

ヴェガ人：リム地域での帝国の政策は多くをヴェガ自治区の存在に負っており、ヴェガ自治区への支援を惜しみません。しかし、ヴェガ人の中には、この状況を利用して完全な独立を目指そうとする者もいます。この動きは「聖なる誓約の守護者」ではなく別の tuhuir によるものです。彼等は各地のヴェガ人社会に軍事的経済的支援を与えたり、ソ

ロマニリム宙域外に植民地を築こうとしたりしています。中には、ソロマニ連合内の「国粋主義者」グループと連携しようとする者までいます。帝国の影響を排除するという目的において協力できるということなのです。

ソル大公は帝国に背かない限りはヴェガ人の勢力拡大を支援していますが、さすがにこの連携を認めるはずもなく、連携に関する活動は全て極秘に行われています。

帝国と連合の争いの中でヴェガ人の勢力は小さく見えるかもしれませんが、その見方は誤りです。彼等は無視するには強すぎるのです。そのことを忘れないでください。

"GURPS:TRAVELLER Rim Of Fire"

SJG6615, \$20.95

Steve Jackson Games

# 何人かのパトロン

トラベラーを遊んでいると、メインのシナリオの他に半ランダムエンカウンター的なデータが欲しくなります。サブリメント「60人のパトロン」はその典型ですが、私もちょくちょくと用意して使っています。以下は、私が実際に利用したものです。

## 若夫婦

プレイヤー用情報：

金持ち風の若い夫婦が護衛を捜しています。彼らは「この地方の犯罪組織を怒らせてしまい、自分達の首に賞金がかけられている」と言います。彼らは賞金をめざしてやってくる多くの暗殺者に殺される前に、この惑星から出たいと思っています。特等チケットの入手と隣の星系に到着するまでの護衛に対して、Cr10,000 + 実費を支払うと言っています。

レフリー用情報：

1 - 2 犯罪組織は、夫婦がこの星域を離れると聞いて賞金を取り消しましたが、夫婦はそのことを知りません。しかし、偽名を使ったり偽装を行ったりするのが当局にばれたらトラブルになるでしょう。

3 - 4 熟練した暗殺者が2人、夫婦を殺す仕事を引き受けています。しかし、惑星の外まで追いかけるようには命令されていません。暗殺者達は宇宙港では手を出しません。出発を確認すれば去っていきます。

5 現地警察はこの事件を知っており、夫婦を保護しようと探しています。しかし、夫婦は信用しようとしません。犯罪組織は見当違いの場所を探していて、この近辺には現れません。

6 組織のちんぴらの一人が夫婦を追って宇宙港に現れます。彼はTP0を無視して夫婦を殺そうとします。

# 「60人のパトロン」57：プレイボーイ、貴族」をヒントに作成。

## 偽造希望者

プレイヤー用情報：

1人の男がPCに近づいてきて、「ある友人からPCを紹介してもらった」と言います。このパトロンは変名で旅行しなければならず、偽造身分証明書を2組造ってほしいと言います。彼はPCの<偽造>の技能レベル1につきCr5,000を支払います(<偽造 - 2>

ならCr 10,000になります)。

レフリー用情報：

1 - 2 パトロンは単にちょっと変わった体験をしようと思っている金持ちの道楽者です。わざと疑われるような行動をとることもあり、PC達が困ることになるかもしれません。

3 - 4 1-2と同じですが、身分証を渡してから数日後、宇宙港の私服捜査官がPCに接触してきます。彼はパトロンの正体について執拗な尋問を行います。

5. パトロンは暗殺者です。身分証を渡した翌日に制服を着た警官がPCに接触してきます。用事は別件でしたが、パトロンは裏切られたと思い込みPCを狙います。襲撃は1度だけで300メートル以上離れた距離からの射撃です。3+でPCの右足に命中しますが死には至りません。その後で警告の電話が入ります。

6 5と同じですが、更に一週間後に狙撃事件があり有名な政治家が暗殺されます。捜査官が再びPCのところにやってきます。PCはしばらく拘禁されます。

# 「60人のパトロン「59:暗殺者」」をヒントに作成

## 酒

プレイヤー用情報：

特産品のテロル口酒の競りの時期が近づいています。テロル口酒は特産果物であるテールをもとに作られる果実酒で、地球のワインに近いものです。テロル口酒自体は基本的に大衆酒ですが、やはり高級品はかなり高価なものになります。最高級のアドミラル・テロル口(1本Cr1,000 ~ 3,000)は生産量の少ない貴重品です。

宇宙港で手続きを終えたばかりのPCに一人の男が近づいてきます。男はPCの次の目的地を尋ねた上で、すべての特等チケットを買おうと申し出ます。

レフリー用情報：

1 パトロンは特等チケットで持ち込める手荷物にテロル口酒を持ち込んで手早く持ち出そうと考えています。通常の貿易品として扱うと手続きに時間がかかるので、その裏をかくて手荷物扱いで素早く持ち出し、一番乗りで売り出そうと考えています。法律の穴をつくような方法ですが、一応違法ではありません。ただし表沙汰になるとトラブルになりかねないので、実状については漏らそうとしません。PCがテロル口酒のオークションに参加すると、パトロンがアドミラル・テロル口を落札している場面を見つけることができます。

2 「1」と同じですが、パトロンのメンバーの一人が、この期に乗じて密輸を企てます。密輸しようとするのは、情報もしくはドラッグです。

3 「2」と同じですが、PCが事前に密輸を発見してしまいます。パトロンは裏切り者の

処分と事件の内密処理についてPCに相談をもちかけます。パトロンはこの件について、Cr10,000の報酬を提示します。(最大Cr30,000まで増額します。)

4 「1」と同じですが、PCは偶然、パトロンを襲撃する計画を耳にしています。話をしていたのは現地のごろつき共で、単純にアドミラル・テロル口の横取りを狙っています。

5 「4」と同じですが、ごろつき共はパトロンのライバルに雇われています。目的は、第一に妨害、第二に横取りです。襲撃が失敗した場合、ライバルは税関に手を回して圧力をかけようとしています。

6 「1」と同じですが、アドミラル・テロル口に生産に問題があり、劣悪品を出荷してしまいました。テロルロギルドが全力を挙げて奪取を図ります。彼等は理由の説明をせず、問答無用でアドミラル・テロル口を取り上げようとしています。場合によっては殺人も厭わない覚悟です。

## ドロイン人

プレイヤー用情報：

先に船長に話をしたいと言ってやってきた特等船客3人はドロイン人でした。彼らは話し好きで色々と話しかけてきます。その中の1人は、自分がルポライターであり、他の2人はそれぞれ芸術家であると言います。彼らは芸術品を手荷物として客室に運び込みたいと言って、前日搬入を希望しています。

レフリー用情報：

1-2 彼らはコインについて知っています。それに関する話を色々教えてくれます。PCがコインを持っている場合、それが本物であるか否か、どういう意味を持つ模様であるか、などについて教えてくれます。

3-4 彼らはおもしろい美術品をいくつか持っています。Cr10万ほどで譲ってくれます。好事家を探せばCr15万で買ってくれる可能性があります。

5 彼らは超能力者です。盗賊の疑いが掛けられており、海軍情報部の監視がついています。PCが少しでも変な動きをすれば、監視者はPCに接触してきます。

6 彼らは盗賊団で、美術品の中には盗品が隠されています。彼らはそれを故郷に持って帰ろうとしています。PCが注意深く調べた場合、美術品の中に盗品が含まれていることを発見する可能性があります。

## 乗組員

プレイヤー用情報：

自由貿易船「ベガンズ・リベンジ」の副長、ハロ・ブラッケンが、宇宙船のエンジン

修理を伝ってくれるエンジニアを捜しています。前のエンジニアが退職してしまっ  
てから、ハロがエンジン管理を任されているのですが、故障の修理は彼の手  
に余る問題になってしまっています(彼は<エンジニアリング=1>しか持  
っていません)。無事に修理をしてくればCr1,000を払うと言っています。

船を見てみると、不十分なメンテナンスが原因のトラブルで、「40 / (PCの<エ  
ンジン>技能レベル)」時間ほどの仕事(レベル1なら40時間、レベル5なら8  
時間。)になることが分かります。

レフリー用情報：

- 1 特別な問題はありません。3日以内に修理が終わった場合、報酬はCr1,500になり  
ます。
- 2 - 3 1と同じですが、ボーナスはありません。
- 4 - 5 ベガンズ・リベンジの船長は密輸をたくらんでいます。サイコロ2個で7+を振  
れば、当局に捕まります。捕まった場合には、PCへの報酬はCr500しか出ません。
- 6 4と同じですが、船長はPCが密告したと思い込みます。顔を合わせる度に嫌がらせ  
をしてくるでしょう。

# 「60人のパトロン「58:乗組員」をヒントに作成」

# Classic Traveller Reprint

"Classic Traveller Reprint Series" は順調に出続けているようです。今回は第3弾、"Adventures 1-13 The Classic Adventures" を入手しました。輸入もののRPGを扱っている店(イエローサブマリンやマークなど)には少数入荷しており、私は新宿のイエローサブマリンで入手しました。売値は元値35ドルに対して5600円でしたが、FarFutureEnterprises社はクレジットカードが使えないので、送金手数料などを考えると妥当な値段でしょう。

本書には、CT(Classic Traveller)時代にGDWが公式に出版した長編シナリオが全部(!)掲載されています

The Kinunir (キンニール:「宇宙海軍」所収)

Research Station Gamma (研究基地ガンマ:「研究基地ガンマ」所収)

Twilight's Peak (黄昏の峰へ:「黄昏の峰へ」所収)

Leviathan (リバイアサン:「偵察局」所収)

Trillion Credit Squardon (一兆クレジット艦隊:「宇宙海軍」所収)

Expedition to Zhodane

Broadsword (ブロードソード:「傭兵部隊」所収)

Prison Planet

Nomads of the World Ocean (海洋世界の遊牧民:「偵察局」所収)

Safari Ship

Murder on Arcturus Station

Secret of the Ancients

Signal GK

の13本です。和名を付けたものは翻訳されたシナリオです。7つ翻訳されているというのは、最近の翻訳物のことを考えると奇跡的に見えるかもしれませんが、でもこれぐらいは訳して欲しいものです。

未訳物の中では"Secret of the Ancients"「太古種族の謎」が一番の目玉でしょう。「黄昏の峰へ」では、太古種族とドロイン人との関係を深く示唆するに留まりましたが、「太古種族の謎」ではタイトル通り太古種族の謎が明らかになります。事実関係についてはメガトラベラーの帝国百科に書かれていますが、自分でプレイするとなると印象は又異なるものになるはずです。

又、Signal GKはメガトラベラーの最後(TNEの最初)に大きな影響を与えたシナリオです。ここで取り上げられた珪素生命体がウィルスとして第三帝国を滅ぼすことになったからです。

本書の装丁は"Books 0-8" 同様昔のルールブックそのままです。( 版型を大きくして、昔の2ページが1ページになるように製本されています。)例によってセールス数が出ていますが、やはり後半のものほど売り上げが下がっているのは仕方がないのでしょうか。キンニールの 36,000 部がトップで Signal GK の 5,100 部が最小です。

入手方法は、輸入ゲームを扱っている店で買うか、あるいは通販を利用することになります。Far Future Enterprises社に直接申し込むことも可能ですが、クレジットカードが使えないので送金がやや面倒になります。詳細はウェブページ(<http://www.farfuture.net>)を参照してください。

私はまだ入手していないのですが、第2弾 "Supplements" も発売されており、未訳の「ライブラリデータ」が収められています。予想以上に順調に出ているので、第4弾の「ショートシナリオ集」、第5弾の「ゲーム」あたりは夏までに入手できると期待しています。

"Traveller Adventures 1-13"

FFE003 \$35.00

Far Future Enterprises

1418 North Clinton Blvd. Bloomington IL 61701

# GURPS Traveller GM's Screen

あまり役にたちません。いや、GURPSでトラベラーを遊んでいる人であるならば、主なチャートがまとめられているスクリーンはそれなりに役立つと思いますが、アメリカならともかく日本ではそういう人はほとんどいないでしょう。(SpaceとかUltra-Techとかが訳されているならば、そちらから入ってきてトラベラーをやる人もいるかもしれませんが・・・)

強いて価値を見いだすとすれば、同梱されている "Cardboard Heros"になるでしょう。米国ではRPGにフィギュアを使うことが多いようですが、その簡単な代用品として厚紙にキャラクターの絵を印刷し、これを折り曲げて立つようにしたものです。

もちろん、これ自体は大したことはないのですが、パイロットや傭兵に加えて、ハイブ人とIthklurが混じっています。こうして同一スケールで並べられると彼等の体のかさがひととき目立ちます。(でも、以前行われたアンケートでは、cardboard herosに付けて欲しい異星人はヴァルグル人とアスラン人がほとんどだったはずなんです。)

この cardboard heros は、GURPS:Travellerを始めると決めたときから、スティーブ・ジャクソン(スティーブジャクソンゲームズ社長)とローレン・ワイズマン(GURPS:Travellerの責任者)との間で「いつか出そう」と決めてあったものなのだそうです。(Online JTAS August 8, 2000 より)

トラベラーファンを対象にしてSJG(Steve Jackson Games)社が行ったアンケートによると、米国では3分の2以上のトラベラーファンがプレイ時にフィギュアを使う(あるいは使ったことがある)のだそうです。

"GURPS:TRAVELLER GM's Screen"

SJG6619, \$10.95

Steve Jackson Games

# トラベラーニュースサービス

現在トラベラーニュースサービス(TNS: Traveller News Services)はスティーブジャクソンゲームズ社のウェブページ(<http://www.sjgames.com/gurps/traveller/news.html>)で週1回のペースで更新が続けられています。日本語版については、筆者が数日遅れで翻訳したものを、[http://www01.u-page.so-net.ne.jp/fa2/phoenix/rpg/traveller/tns/tns\\_j.html](http://www01.u-page.so-net.ne.jp/fa2/phoenix/rpg/traveller/tns/tns_j.html) で公開しています。

2000年下期のTNS(ここでは、2000年7月から2000年12月までの発表分を対象としています。)は、トラベラー世界の暦で言えば、1117年の後半に相当する時期ですが、比較的静かに過ぎていったと言えます。

最も大きなニュースはKukulcanを巡るソロマニ情勢と言えますが、この事件自体はにらみ合いの様相を呈しています。その他のニュースは断片的なものが多いのですが、文化面に関するニュースが目立つとも言えます。あとは例によってスピンワードに関するものです。

以下では、それについて概略を述べます。詳しくは上述のウェブページを見てください。こういう断片情報から色々と推測をするのも楽しいものです。

## ソロマニ情勢

Kukulcan情勢は停滞しています。大きな戦闘が発生した形跡はありません。

一方、エスペランス星系(Esperance/Sol)の政情不安が高まっています。エスペランスには人類国家とヴェガ人国家とがありますが、ここ数年、戦争の危機が高まり続けています。人類国家には親ソロマニ派が多く、一方で帝国側はヴェガ人への弾圧を厳しく批判しています。

ヘルナンド伯爵(Count Hernando)は特にヴェガ人弾圧に対して強い懸念を表しており、娘のマリア男爵夫人提督(Admiral Dame Maria)をエスペランス在留の第1291植民地艦隊の司令官に任命しました。マリア提督は対ソロマニ強行論者としても知られている人物です。場合によっては帝国とソロマニとの代理戦争が勃発するかもしれません。

又、来年テラで開催されるリムワード諸国外交会議に参加しようとしたマデリン＝ヘファーニン(Maderin Hefernin)氏へのピザ問題もありました。テラ政府が同氏へのピザ発給を拒否したことが発端でした。理由はソロマニ党の活動に関連したものだということです。その後、幾つかの条件付きでヘファーニン氏へのピザは発行されましたが、会議開催の時期に再び似たような問題が浮上するおそれもあるでしょう。

## 文化について

貴族の子女の間でエスニック風ドレスが流行していることとか、シリア大学(the University of Sylea)のヴィラニ文学部の学長に非ヴィラニ人が選出されたこととか

が、主なニュースです。

これらが、単なるフレーバーに留まるのか、それとも何かの動きの前兆なのかは分かりません。”Rim of Fire”のページで書いた「オーセンティック運動」の今後も絡むと言う点からも注意を払うべきでしょう。

## デネブについて

来年「デネブ騎士団(the Order of Deneb)」が設立されることになりました。(もちろん、騎士団と言っても軍隊ではなく「名士会」なのですが、他に座りの良い日本語が分からなかったので騎士団と言うことにしています。)1118年の元日に発表される予定です。慣例に従うのであれば、名簿の筆頭にはノリス大公、2番目にはストレフォン皇帝があるはずですが、又、デルフィン公爵(Duchess Delphine of Mora)が含まれていることも明らかにされています。最初に序列の名誉に浴するの数十人程度と見られています。

## デュリナー暗殺事件その後

捜査は難航しています。それとは別に、相変わらず「デュリナーは実は生きている」という噂話も絶えません。

一方で、デュリナーの記念コインの発行(来年予定)や記念の彫刻作成の話なども進んでおり、彼のドランでの人気の高さが伺えます。

# あとがき

ということで、Phoenix通信のvol.2(第3号)が無事に出来上がりました。

今号は、ソロマニです。ソロマニ関係のデータは非常に興味深いのですが、CTが日本に紹介されていた頃も、ソロマニの情報はあまり紹介されなかったので、知らないことが多いのではないかと思います。ウォーゲーマーあがりの人は「星間戦争」や「アスラン国境紛争」が「インペリウム」や「ダークネビュラ」などのGDWのウォーゲームの背景であることに気付かれたでしょう。ちなみに両ゲームとも国際通信社から日本語版の再発売が決定しています。通販も受け付けてくれますので、興味のある方はウェブで探してみてください。

今回の夏コミも参加のつもりです。BITSというイギリスのトラベラーファンクラブが出している本が入手済みなのですが、これが結構使えそうなので、紹介する予定です。あとは、一つの世界(トラベラーで世界というのは、一つの惑星とかアステロイドとかのことです。)にスポットを当てたGTの新サプリメントシリーズについて、スティーブジャクソン本人が「近いうちに」と言っていたので、これが出ればな、というところで

本文中で触れませんでした。Onine-JTASも順調です。一つのゲームに焦点をあてたオンラインマガジンの実験としての役割もあるとスティーブジャクソン本人が書いていました。あと、最近では旧TACTICS誌に翻訳が載っていたアンバーゾーンなんか再掲されていたりします。

それでは、みなさん、良い航海を。

## おくづけ

発行日：2000.12.29

発行者：phoenix

発行所：Phoenix 財団

連絡先：phoenix@fa2.so-net.ne.jp